

208

787

續猿蓑毛二編

下

宮嶋 續膝栗毛二編 下卷

かくく 可伏鬼と業出。横島の浪戸をさる。

繪の島沖の海乃あさるにいらし。西國方の

中丈名の山松ありとく。紫の幕おす。

毛の繪馬下るど袖のさよおし。つて

の吹流し。風よきさるひ。およひるがいつて受と受

らさる。げよんえさる。げおん船さ小船あま

二つよる。び。横拍子ささる。いひる。いひる。

大戸の
紅白

めぐらぐらぐら。板子と踏みふらと青川のつたにめぐらぐら。

あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。
あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。

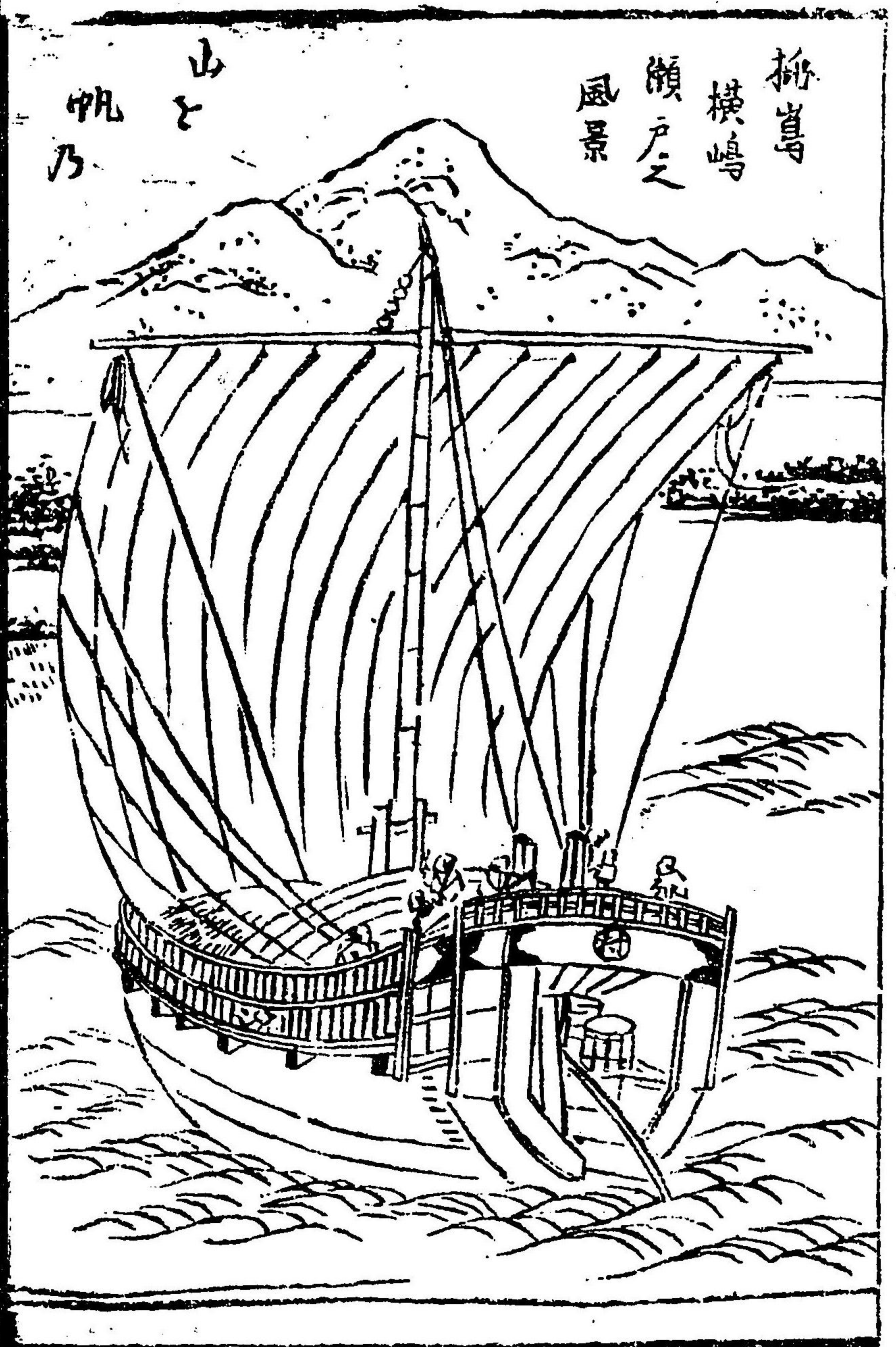
あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。
あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。

あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。
あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。

あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。
あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。あふらふらあふら。



帆乃
 山と
 横嶋
 願戸之
 風景



帆乃
 山と
 横嶋
 願戸之
 風景

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written vertically and includes several lines of characters. Some words are written in a more formal, printed style, possibly indicating specific terms or names. The overall appearance is that of a historical document or a personal correspondence.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one above. This section also contains vertical lines of text with some formal-looking words interspersed. The handwriting is consistent with the top section, suggesting it's part of the same document or a related one.

ともばきりせむと *Amur* の *Amur* 大 *Amur* 大

格別 ^{くくろ} 酒 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

下 ^{シラ} 残 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

か ^{シラ} の *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

下 ^{シラ} の *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

大 *Amur* 大 *Amur* 大 *Amur* 大

備後國
尾之道

ゆき

船

さし

さし

長

さし

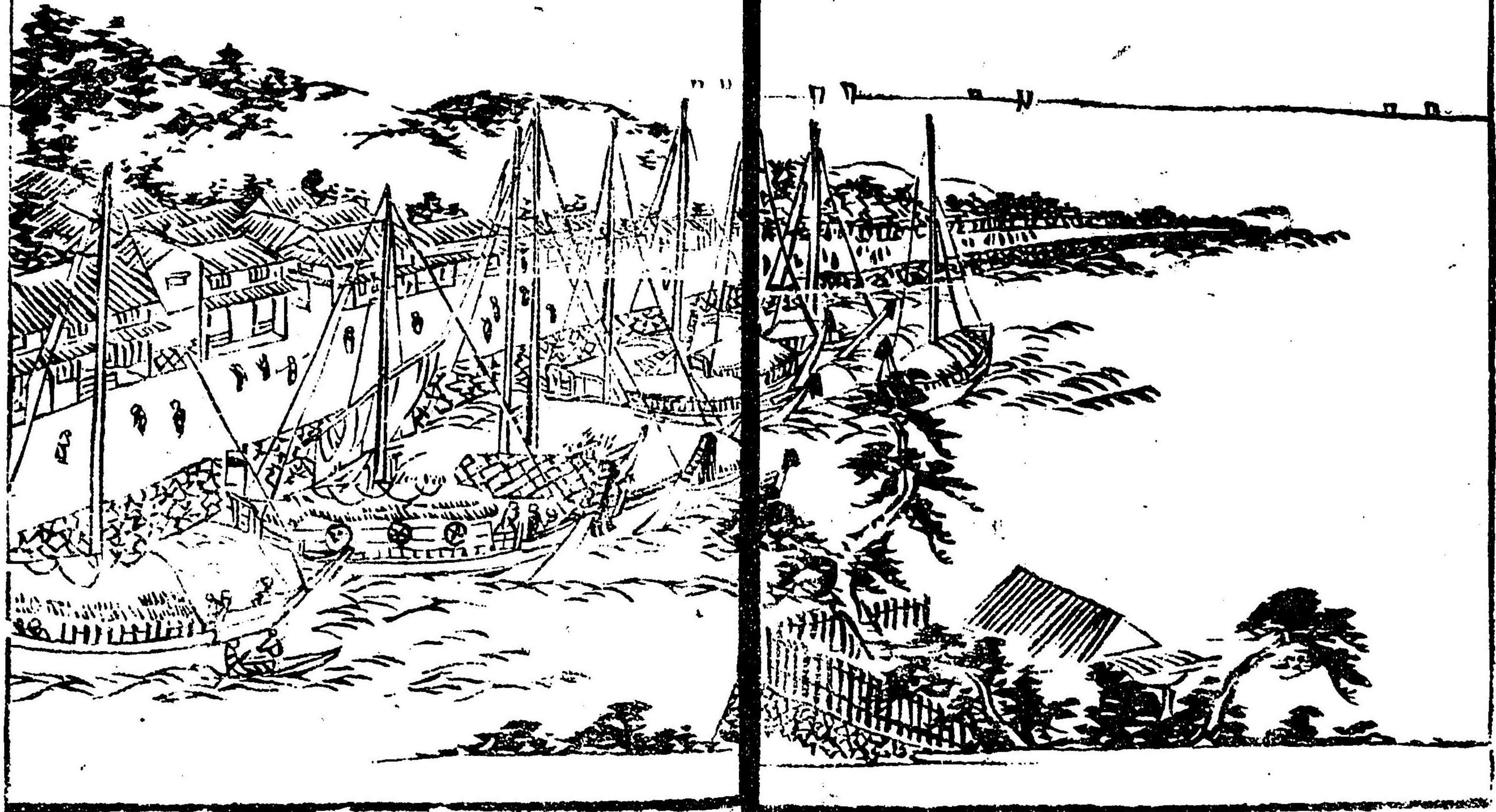
備後

さし

船

さし

十
一
九



相^{あひま}違^{ぢが}ひしうみへて。海上^{うみの上}にまほせむひるるが夜^よ
 洋^{おのほ}の浦^{のうら}に上^あるにわきまをみるまふるてよるを
 清^{きよ}盛^{もり}のま^のまの波^{なみ}をうきまるとぞ。
 清^{きよ}盛^{もり}のま^のまの波^{なみ}の由^{よし}り又^{また}
 あま出^いて笑^{わら}ふ山^{やま}の追^お風^{かぜ}
 是^{こゝ}より巖^{いそ}若^{わか}市^{いち}成^{なり}たなぞ。ふどまへ蘆^{あし}州^{しゅう}
 富^{とみ}美^みのまごまへりる。岩の嶺より二十里余
 およそ七十里
 女神^{めがみ}よそなるまへの富^{とみ}美^みの

中^{なかつ}へなるまへの
 けこるまへの陸^かの舟^{ふね}をたよは
 してまへのまへのまへのまへのまへの
 そまへのまへのまへのまへのまへの
 儀^ぎをまへのまへのまへのまへの
 今^{いま}後^ごにまへのまへのまへのまへの
 おとまへのまへのまへのまへのまへの
 まへのまへのまへのまへのまへの



四月

江戸

かた

ま

あま

あま

あま

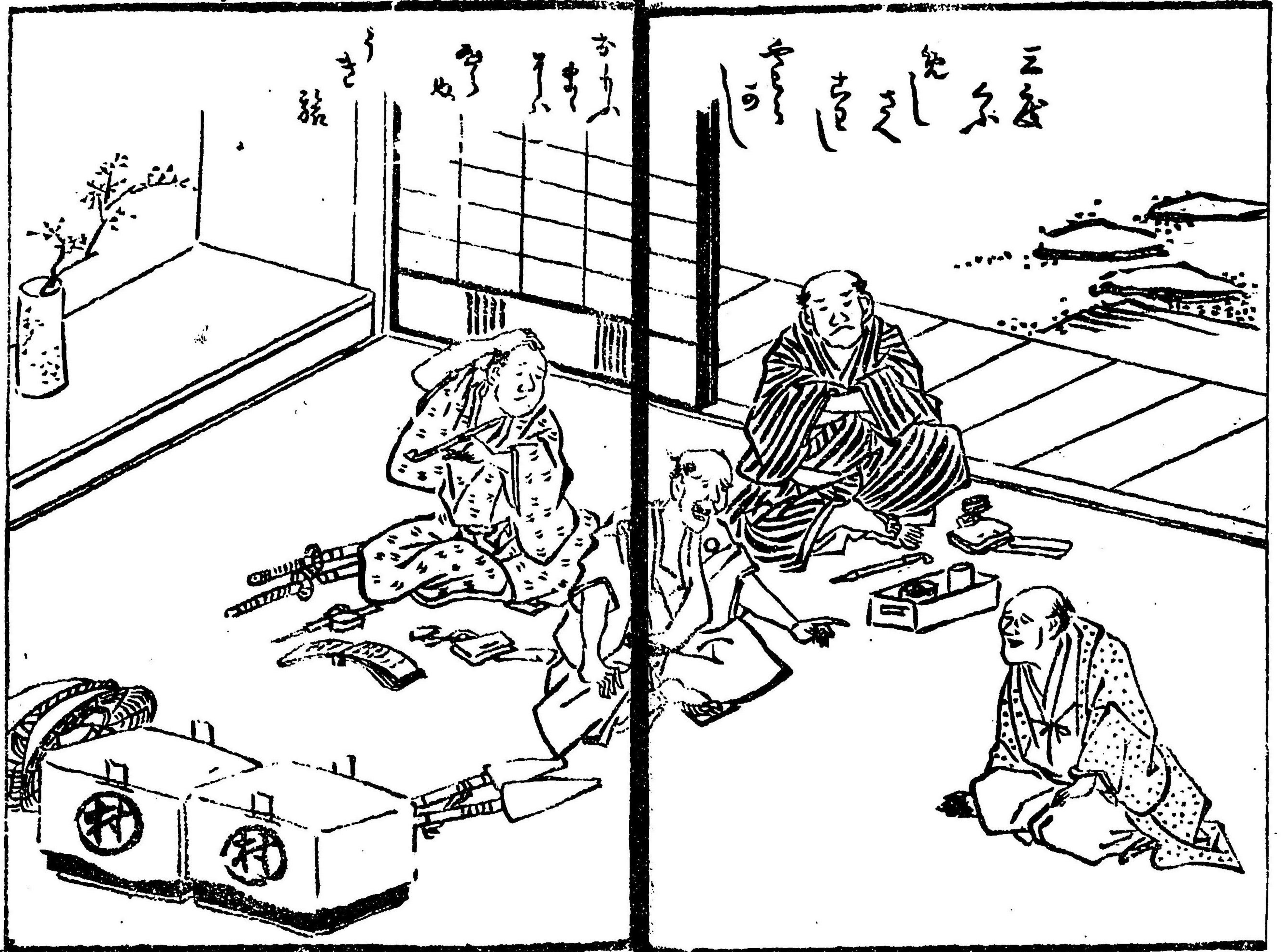
あま

あま

鏡と御朱が買てえるせうそして茶履を
 一ツくみのみまやと「エ」からみるやう
 ぐんぐんト雨降一斤さけさつておひらぐをどくはる
 たりりほろ「コリヤ鏡ハ是をうりう」ほろ「あはれく
 ぶらま「あんのころい。からり移入け鏡札ハ
 下敷と三枚のれ」ヤケニそれで御朱を
 ぶらま「ア銀れ」あま「あはれ」あま「あはれ」
 よう「コリヤ女中あはれ」あま「あはれ」

1. ^ハカアノくろんて〜
 2. ^ハホ〜
 3. ^ハハ〜
 4. ^ハハ〜
 5. ^ハハ〜
 6. ^ハハ〜
 7. ^ハハ〜
 8. ^ハハ〜
 9. ^ハハ〜
 10. ^ハハ〜

1. ^ハハ〜
 2. ^ハハ〜
 3. ^ハハ〜
 4. ^ハハ〜
 5. ^ハハ〜
 6. ^ハハ〜
 7. ^ハハ〜
 8. ^ハハ〜
 9. ^ハハ〜
 10. ^ハハ〜



さるもあつて。いふさうにやな
なる。のいばるぞく。縁登積ともせ
身がさうの借うけこけ産蔵ともよ
今晩一夜のけ方の宅も同希ど
あつて。お宿賃どもりかたあつてお宿
し。産蔵どもやケニ今夜たふら
も産蔵交りよまぶらるも。お積
ぶらる。いふさうにせしむらるが

とさういふまよあつて。お
いふさうにせしむらるが
いふさうにせしむらるが
あつて。お宿賃どもりかたあ
今晩申ハアノ書信も。
牙がさうの書信ども。お今たれ
中かハあつた。お今たれよ積
五ハソト人のいふさうにせしむらるが

ワライへおめなす。かんしからんしよりさきしし。

せうち

取急しよの「サハ」。ナニ。まあ

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

あほうのあはれト。あほうのあはれ。あほうのあはれ。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines across the page, with some lines starting with a large initial letter. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a date, written in a similar cursive script.

あんよ相遠る靨の赤恥

かく打奥ぶて。少八由おのりくのらぐひるをさ
かろうるめぐとて。打ちしるるか一膳の爰乃
うらよ遠奪の種ひごつとて。鶏の交家よ
うらいて。夜由あけしるよ。あぐておまし出まば。宿の
亭主あうて。ぐら運道一喜めづらう。ふと
まむるよ。ぼびら。鞠の括女がりひり。よ。何と
やら。ゆよ。かり。ふら。ゆ。かく。を。難。め。て。この。後。よ。

とて。夏草その。寮内者の。お。た。た。ま。の。さ。し。の。さ。
打つて。爰と。ま。出。ゆ。く。よ。青。物。着。る。の。ま。は。い。て。
女の。賣。あ。く。ん。え。て。め。づ。ら。う。又。け。と。ま。の。
名。物。と。て。深。揚。枝。と。る。家。あ。り。し。

あ。う。の。齒。ん。せ。て。や。う。と。ら。る。ん。也。
か。く。て。は。山。よ。の。む。ら。い。弘。法。大。師。の。宝。塔。を。こ。ら。て。

名のり

海山の

ちのり

ちのり

おちのり

櫻花亭

金丸



山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎



154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200

201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250

とて名物のめらさる茶屋あり

瞬の名のちららやまうせよ夜はとて

福かきんのはまらや夫婦一孫らん

それより西頼大日堂のあつりよらるらん

より上の山又町むらうの旬種まきのま社

多一。是と巡洋まきよらや當りつとさあて

ト一又並呑しつらむらや福入まきらん

向ふの茶屋よら。眞まきかろくま。台まきのまらへ

イヤロ。あこの茶屋まきつらけんらん

のガ一サイノ笑まきめされけ近在まきの

今持が妻まきあつらて。いんまきでやらん

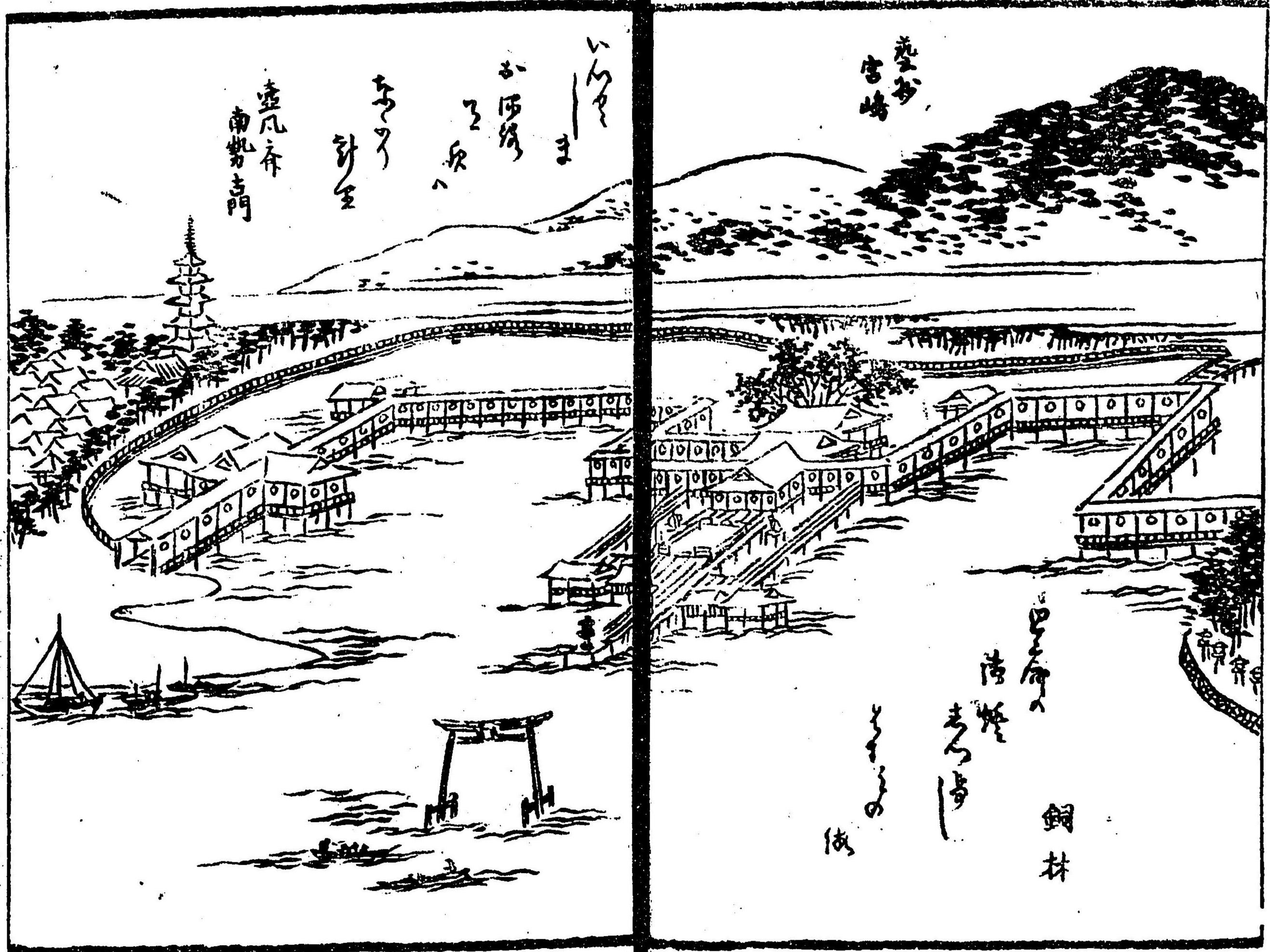
あこの娘まきあつて。いんまきと親まきらんらん

ソリヤるらあつらや。交まき度まき合まきひまきでやろ

アんと。お徳まきかでけまきかま。その因まき非まきらんか

眼まきよらつら。らんまきまふまきあれんまきらん

あこの肉まきづくまきあつらまきまくと。毎まき日まきハまきの



いんま
おほつ
あつ
か
ま
壺凡存
南勢吉門

壺
吉場

壺
吉場
銅林

依

454
1. 毎座へ 454
2. 454
3. 454
4. 454
5. 454
6. 454
7. 454
8. 454
9. 454
10. 454
11. 454
12. 454
13. 454
14. 454
15. 454
16. 454
17. 454
18. 454
19. 454
20. 454
21. 454
22. 454
23. 454
24. 454
25. 454
26. 454
27. 454
28. 454
29. 454
30. 454
31. 454
32. 454
33. 454
34. 454
35. 454
36. 454
37. 454
38. 454
39. 454
40. 454
41. 454
42. 454
43. 454
44. 454
45. 454
46. 454
47. 454
48. 454
49. 454
50. 454
51. 454
52. 454
53. 454
54. 454
55. 454
56. 454
57. 454
58. 454
59. 454
60. 454
61. 454
62. 454
63. 454
64. 454
65. 454
66. 454
67. 454
68. 454
69. 454
70. 454
71. 454
72. 454
73. 454
74. 454
75. 454
76. 454
77. 454
78. 454
79. 454
80. 454
81. 454
82. 454
83. 454
84. 454
85. 454
86. 454
87. 454
88. 454
89. 454
90. 454
91. 454
92. 454
93. 454
94. 454
95. 454
96. 454
97. 454
98. 454
99. 454
100. 454

454
1. 毎座へ 454
2. 454
3. 454
4. 454
5. 454
6. 454
7. 454
8. 454
9. 454
10. 454
11. 454
12. 454
13. 454
14. 454
15. 454
16. 454
17. 454
18. 454
19. 454
20. 454
21. 454
22. 454
23. 454
24. 454
25. 454
26. 454
27. 454
28. 454
29. 454
30. 454
31. 454
32. 454
33. 454
34. 454
35. 454
36. 454
37. 454
38. 454
39. 454
40. 454
41. 454
42. 454
43. 454
44. 454
45. 454
46. 454
47. 454
48. 454
49. 454
50. 454
51. 454
52. 454
53. 454
54. 454
55. 454
56. 454
57. 454
58. 454
59. 454
60. 454
61. 454
62. 454
63. 454
64. 454
65. 454
66. 454
67. 454
68. 454
69. 454
70. 454
71. 454
72. 454
73. 454
74. 454
75. 454
76. 454
77. 454
78. 454
79. 454
80. 454
81. 454
82. 454
83. 454
84. 454
85. 454
86. 454
87. 454
88. 454
89. 454
90. 454
91. 454
92. 454
93. 454
94. 454
95. 454
96. 454
97. 454
98. 454
99. 454
100. 454

Handwritten text in Arabic script, likely a manuscript page. The text is arranged in a single column, written from right to left. It contains several lines of text, some of which are marked with small numbers or symbols (e.g., #57, #58, #59, #60, #61, #62) interspersed throughout. The script is cursive and appears to be a form of Arabic calligraphy, possibly used for religious or administrative purposes. The page is framed by a simple border.

福くと。いひつよ片梅かづるさるりのととと
福く山ハゆめ入とさつづぐよ片梅のゆめさ
ほひぞかきさかひしよふら移入がたあつてふよ
サ梅組どのよのよまた下そねぶさつていふ
りよりのつるまゝのの誰かののささかあつ
一おめつがうらなゆめさちんくんのよのさる
トヤぶらせんつうホニニそんくへト
トヤサハサハナシシナハク
カキシツリウシシ
カコリヤ肩がめつしむゆめさ

さうとまのよまのの伝ぬゆめさひかげんはまが
しめさつるぬりぬすまにさる病気で死ぬ
のの福くとさうつら。今よまがつてさる
トヤハサハナシシナハク
カコリヤ肩がめつしむゆめさ
さいさめちらトヤまつらつぬのつんれん東町
の今太とはんぬのめて観音堂のさるサハナシ
ガコリヤハナシシナハクカコリヤ

てけさるまてし 罪 めんぶゆふ。こらがなが今^{ちん}をめと
くこのうちあて

はまかよてしきか。あかかろの。こりやかろしん

居^かたれんころん トのひたまふくじまじちんをよけい
海^あのうまじくもまじくたてしんを

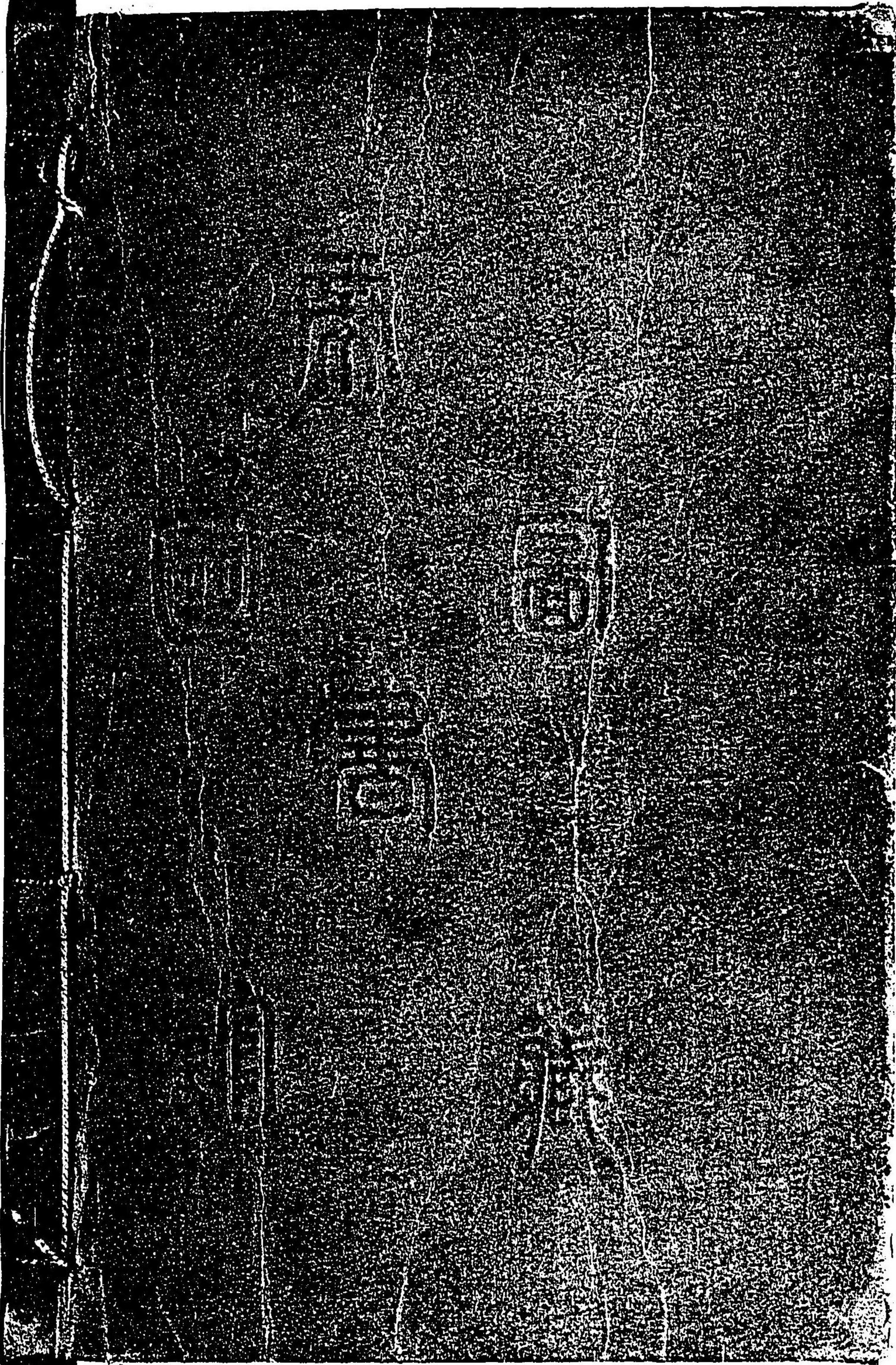
くまじしとんえんあめ。のふたどとあつうしんをひへんま^あ進^あけ
くろしがづのよんうらうあてまんをくまじくまじくまじく

これより中^あぶよ^あの^あ犯^あれん^あま^あん^あの^あか^あへ^あん^あへ

まじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじく

續 繚 栗 色 三 編 下 巻 終

208
25
787



208
25
787

續纂彙考

二編
下



藏